

う既存農家と同様のなやみを持ち始めている。

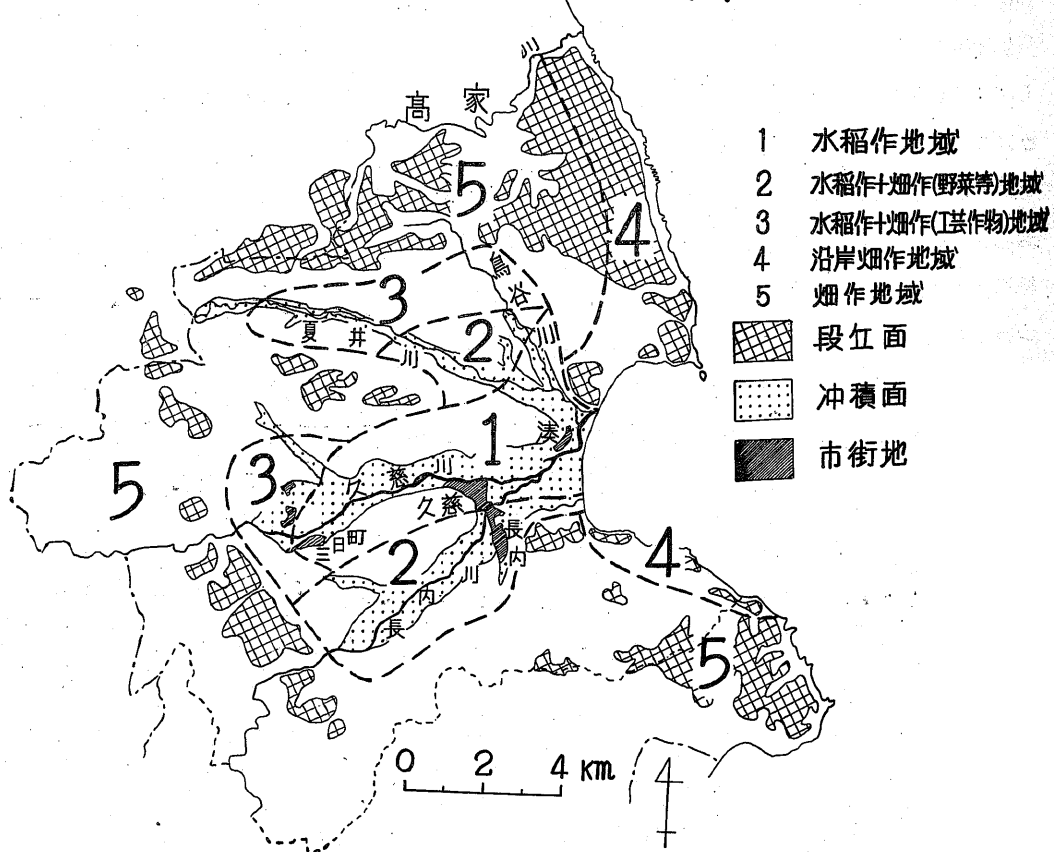
## 岩手県久慈市の地理学的考察

山崎民子

本論文では、一地域を地誌的にとりあげ、そこからその地域の性格をつかむことを目的とした。

論文の構成内容は、以下の通りである。

### 久慈市の農業地域区分図



## ＜第1章＞ 調査地域の位置

調査地域は、岩手県の北東部に位置する久慈市の北半部で、西は北上山地によって囲まれ、東は太平洋に望む。

## ＜第2章＞ 自然環境

第1節概説では、地形、地質、気候を扱ったが、中でも本地域の気候は、夏の低温、ヤマセと呼ばれる東風、海霧等によって特徴づけられ、しばしば冷害をもたらし、本地域の主産業である農業に大きな影響を与えている。

第2節地形では、本地域における地形を次のように分類した。(1)段丘面：第1面、第2面、第3面、第4面、第5面、第6面、第7面 (2)沖積面：高位面、低位面（微高地、微低地）、小谷床面、砂浜及び河原 (3)山麓緩斜面、本地域は八戸から宮古へつづく海岸段丘地域の一部で、これは背後の北上山地から流れてくる小河川によって開析され、所々平坦面を残す程度で全体的には丘陵状をなしている。沖積地は河川に沿ってわずかに開けている。

## ＜第3章＞ 人文環境

第1節概説では、歴史、交通、産業をとりあげ、特に産業に重点をおいた。本市における産業は第1次産業が圧倒的に多く、就業人口比は、全体の47.4%を占めている。中でも農業の占める割合は、31.6%と他産業を通じて一番多くなっている。

第2節農業では、土地利用の変遷及び現状と営農状況を主に統計によって考察し、これに地形をも考慮に入れて本地域を次の5つの農業地域に区分した。(1)水稲作地域、(2)水稲作+畑作（野菜等）地域、(3)水稲作+畑作（工芸作物）地域、(4)畑作地域、(5)沿岸畑作地域。最後に久慈市における農業の問題点として冷害と出稼ぎについて述べた。本市における農業は水稲、豆類、麦類、雑穀を主とする自給的零細農業である。最近では、養豚、酪農等の畜産や畑の換金作物としてビートやタバコも導入されているがまだわずかである。

## ＜第4章＞ 要 約

以上みてきたようにこの地域の性格として農業は自給的零細農業であり、漁業や工業等他産業もすべて後進的であることから後進性ということがあげられる。これは、本市の位置が中央から離れていることや北上山地によって県の中心から隔っており、更に交通が不便である等のため岩手県内における孤立性が強く、これが後進の性格を導いた原因の一つと思われる。本市は、地理的位置及び交通条件等のため隣県の八戸市と経済的な面で結びついている。故えに、本市における後進性は久慈市独自の発展よりも、八戸の発展に伴って消えていくのではないかと思われる。